



管内の百名山 「草津白根山」



横手山ヒュッテ方面から見た白根山



遊歩道から見た湯釜

草津白根山は群馬県吾妻郡草津町の国有林に位置する白根山（2,162㍍）、逢ノ峰（2,110㍍）、本白根山（2,171㍍）の3山の総称で、長い歴史のある活火山です。現在の草津温泉街がある台地は、約30万年～35万年前の白根山の大火砕流によってできたものです。

全国に白根と名の付く山はいくつかありますが、白根は白峰あるいは白嶺から付いたといわれています。この白根山も名の由縁どおり山頂付近は白い山肌が広がっていますが、1882年の噴火以前は鬱蒼とした森林に覆われていたといわれています。

白根山頂には頂上らしきものはありませんが、その付近には幾つかの噴火口があり荒々しい姿を見せています。周辺には火口湖が三つ並んでいて、中央の大きいものが湯釜と呼ばれ、直径300㍍の雄大な湖面には世界で有数の強酸性の神秘的なエメラルドグリーンの湖水が広がり、褐色の火口壁とのコントラストが魅力的ですが、現在は、火山活動の危険性から火口半径500㍍以内は立入り禁止となっているため、近くでは見られません。

南部に位置する最高峰の本白根山では、高山植物の女王コマクサの大群落が見られます。これは数十年前から盗掘により絶滅寸前だったコマクサを復元させようと、情熱を傾けられた地元個人の方の地道な活動から始まったもので、今では草津中学校の生徒、地元有志、自然保護団体等の多くの方々の方々の活動によって復元された貴重な群落です。

厳しい自然環境の中に生き抜く可憐な姿は、多くの観光客・登山者等の心を癒してくれます。この地元の人達の努力の結晶であるコマクサ等を守るために、吾妻森林管理署では地域の方々と連携しながらパトロール等の保護活動に積極的に取り組んでいます。



高山植物の女王コマクサ

(吾妻森林管理署 広報広聴連絡官)